

1.十和田市水道事業ビジョン2019策定の背景と目的(P.1)

これまでの「豊かな自然の恵みを活かしたシンプルでムダのない水道」の基本理念に加え、国が示した新水道ビジョンの『安全』『強靱』『持続』の3つの観点から水道事業の将来像とそれに向けた具体的な施策を示します。計画期間は令和元年度から令和10年度までの10年間とし、中長期的な視点に立ち、20年先までの水需要や施設の更新需要に関する見通しを推計します。

2.十和田市水道事業の概要(普及率P.7,水道管路の現況P.27,管路の耐震化状況P.30)

本市水道事業は1上水区域、5地区簡易水道で運営しており、平成30年度末の給水人口は60,254人、普及率98.7%となっており、ほぼ全域に配水しています。水道管路の現況は、導水管約32km、送水管約30km、配水管約791kmとなっており、管路の耐震適合率は導水管40.1%、送水管77.4%、配水管37.2%となり、全体で38.7%となっています。

3.水需要の動向と将来の見通し(P.36~41)

平成30年度末における給水人口は、上水道・簡易水道区域合わせて60,254人ですが、20年後の推計値では52,217人で13.3%減少する見込みです。一日平均給水量も18,744m<sup>3</sup>/日から15,936m<sup>3</sup>/日となり、15.0%減少する見込みです。

Table with 7 columns: 区分, 給水人口(人), 一日平均給水量(m<sup>3</sup>/日), and rows for 十和田市上水道, 簡易水道, 滝沢地区簡易水道, etc.

4.将来像の設定(基本理念)(P.42~50)

良質な地下水源の有効活用や施設統廃合を進め、シンプルで管理が容易な水道、無駄のない経営を目指すことにより、安心して確実な水道サービスを可能な限り低廉に、継続して市民に対し提供して行くことを基本理念とし、水道経営を進めていきます。また、国の「新水道ビジョン」で示された『安全』『強靱』『持続』の観点に基づき、下記の施策目標を設定します。

《十和田市の基本理念》

「豊かな自然の恵みを活かした シンプルで ムダのない 水道」 ~安心・確実な水道サービスの継続を目指して~

《十和田市の施策目標》

- 安全 安全でおいしい水の供給
1.水源水質の保全
2.水質管理体制の強化
3.貯水槽水道の管理
持続 健全で安定的な事業運営が可能な水道
1.組織機構の見直し
2.経営基盤の強化
3.サービスの充実
4.省エネルギー化の推進
5.人材の育成・水道技術の継承

- 強靱 強靱な水道施設の構築
1.施設の改良・更新・耐震化
2.管路の更新・耐震化
3.計画的配水管網の整備
4.情報システムの導入
5.漏水調査の強化
6.災害対策
7.応急復旧対策の強化
8.広域連携

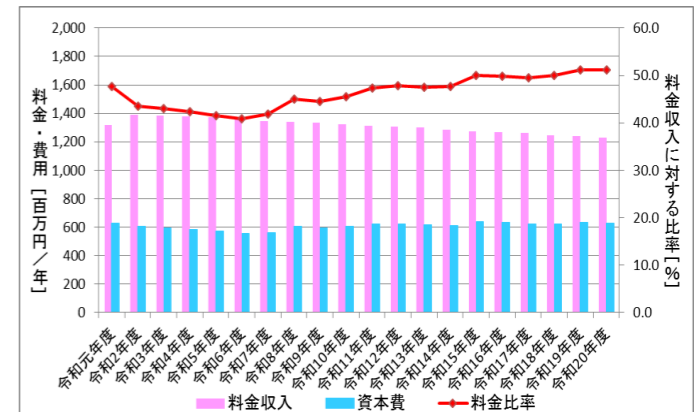
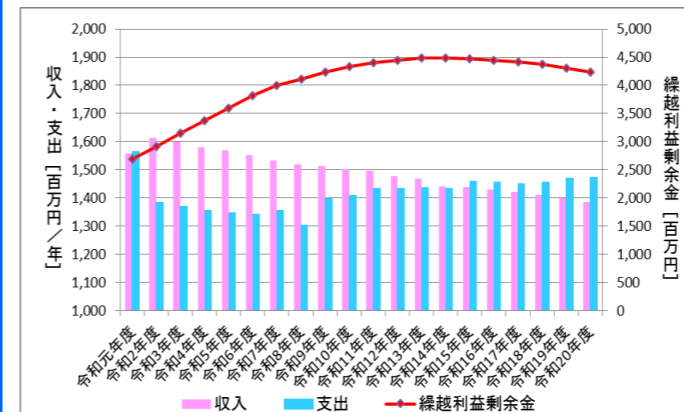
5.事業計画の概要(P.51~52)

本水道事業ビジョンに示した施策の中で、今後10年間で実施する事業の概要は下表のとおりです。事業を実施するには約48億円の費用が必要になりますが、今後、詳細な検討、事業費の見直しを図りながら、経済性を考慮し、合理的・効果的な事業実施を行います。また、本市水道事業ビジョンの推進にあたっては、「PDCAサイクル」の手法に基づき、計画した事業の成果検証と改善を繰り返しながら、継続的に進捗状況の管理をしていきます。

Table with columns: 事業名, 事業概要, 事業費(千円), 事業期間 (R1-R10). Rows include 取水施設整備事業, 送水施設整備事業, etc.

6.財政収支の見通し(P.53)

水需要や更新需要の見通しに基づき将来の収益的収支を推計すると、今後10年間は概ね良好であることから、適正な事業運営が維持できるものと見込まれます。しかし、「収益的収支図」からは、これまでの利益の積立額とされる繰越利益剰余金が令和14年度をピークに徐々に減少していくことが読み取れます。また、事業の効率性を表す「資本費と料金収入図」からは、給水収益に対する資本費(減価償却費)の割合が徐々に増加し、事業の効率性が悪化傾向になっていくことが読み取れます。このことから、次の水道事業ビジョン改定時には料金改定を視野に入れて、更なる事業内容の精査を行ってまいります。



収益的収支

資本費と料金収入